

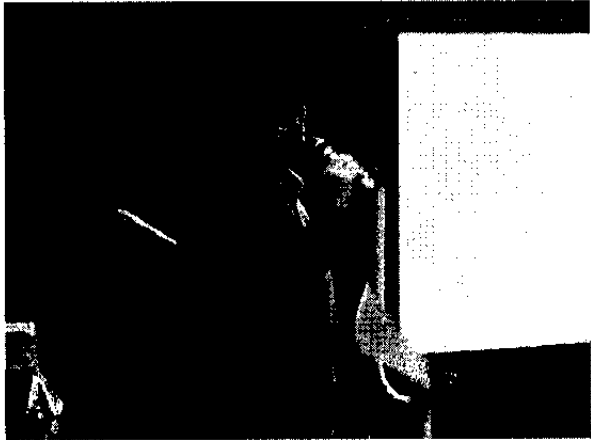
丹生ダムかわら版 1

第1号 発行/「丹生ダム対話討論会」

ホームページアドレス <http://www.biwako.ws/se/bi/>

平成15年11月24日(月)、第1回「丹生ダム対話討論会」が開催されました。

この討論会は、丹生ダムに関して、いろいろな意見をお持ちの方が一同に会し、河川整備計画基礎原案についてお互いに率直な意見や情報を交換し合う場として国土交通省近畿地方整備局が設けました。



ファシリテーターズ先生

討論会の運営は、討論の進行・調整役として、豊富な経験と専門的ノウハウを兼ね備えた第三者(ファシリテーター)が行い、少人数によるグループ討議の方法をとりました。今回の対話討論会の目的(討論参加者に求めるもの)は、討論参加者が、互いの意見を語り合い、意見の構造を討論参加者自らが理解し、みんなで整理するプロセスを共有していく事です。まずは、3回行われる討論会の『討論会の論点』として“調査検討の為の意見項目づくり”を行います。主役は、住民です。

近畿大学理工学部久 隆浩先生をファシリテーターに迎え初日の暑い一日を終えました。

● 対話討論会参加者数

討論参加者 26名、 傍聴参加者 80名

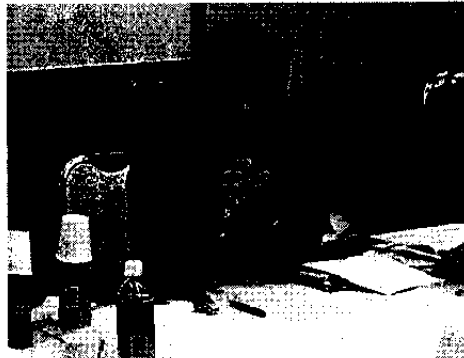
● 進め方のポイントは次の通りでした。

- ①お互いの意見を聞き合おう →他の人の意見、立場を知る。
参加者全員に発言の機会を与える。
- ②立場の違いを尊重しよう →立場が違えば意見も違う。善悪や好き嫌いではなく、いろんな側面があることを知ろう。自分の意見を相手におしつけない。
- ③合意に向けて努力しよう →立場の違いを乗り越えて、意見調整するのは難事業。
<最終目標> 3回では無理で、ただ、次のステップに向けて話し合いの場を作りたい。
時には自分の意見を否定することが必要になる。
合意に向かう過程がより大事です。

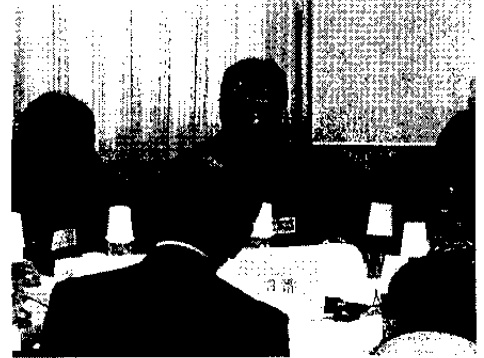
今回の対話討論会の結果を主催者が受け、検討し、ひとつずつプロセスを共有する為に再び討論会を開催するようです。



第1グループファシリテーター 横山氏



第2グループファシリテーター 森川氏



第3グループファシリテーター 中村氏

第1グループ

【 討論参加者 】

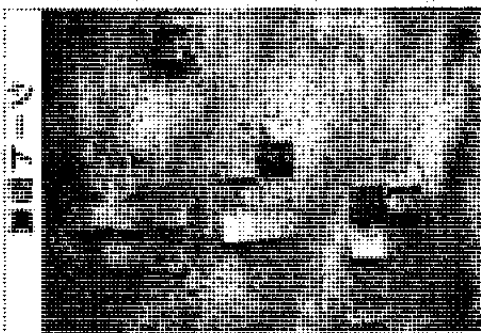
・中川泰三・鳥塚五十三・岸上広・轟保幸・野村東洋夫
 ・河合亮二・三國昌弘・石山一光・谷口浩志（敬称略）

グループファシリテーター： 横山 葵（有限会社 エイライン）

第1回完成 シート

ダム建設の意
 見決定におけ
 る住民のかか
 わり方

調査・資料	利水	治水
<p>ダム建設の費用</p> <p>水量</p> <p>自然の営みに対して謙虚な姿勢、考え方を持つべき</p> <p>水余りに ついて調査</p> <p>水質</p> <p>歴史を考 えてほしい</p>	<p>バランスのとれた水需要について調べる</p> <p>淀川下流部の水余り</p> <p>管理者 水需要につ いて調べる</p> <p>水余りについて 今迄の水源県と 下流域県とのや りとりを知りたい</p> <p>一般の水需要 について調べ る。</p> <p>需要水余りに ついて調査</p>	<p>ダムの必要性</p> <p>いまこそ山に 目を向ける時</p> <p>堤防洪水時の 怖さについて</p> <p>丹生ダムは工事 用道路も殆ど完 了、本体工事を 残すのみで早期 本体着工必要</p> <p>丹生ダムと 山林の 管理について</p> <p>水量保全 水環境 生態保全</p>



第1回 討論風景



第1回 全体報告

報告者：鳥塚五十三 サブ報告者：野村東洋夫

- ◎ ダムの有効性について（代替案はないのか）
- ◎ 治水→淀川水系の最北にある高時川にとって林地の重要性
天井川の問題について重要である。
- ◎ 生物環境と背切れの問題を考える必要がある。
- ◎ 利水→水余りの一方、滋賀県琵琶湖の水位低下
水量と水質の保全

↓
調査が必要

- ◎ 建設コストについても考えていくべきである。
- ◎ 歴史を振り返りつつ、ダムの必要性を考える。
- ◎ 人間の手による開発の中で失くしたものに注目してい
く必要がある。

討論中に出た意見

- ・危険な堤防の近くに住む人にはダムが必要である。
- ・日本の特質(洪水の継続時間は短いが量が多い)から洪水対策としてダムが有効であり、ダムでピークカットをするのが良いのが、日本の地形・気候である。
- ・住民が、公共事業・ダム事業建設にどのように関わっていく事が良いのかに感心があり、さらに、無関心層の人に対するアプローチをどうするのかも含めて考えてゆきたい。
- ・流量の安定保持によって、生態保全が望まれると考える。
- ・治水が重要であり、高時川、姉川など、砂利が積みあがった状態の堤防は危険である。
- ・地元の川では、瀬切れが起こっており、濁水のため鮎の産卵が見られない時がある。
- ・スキー場開発のため切り開かれた斜面は降雨時川に泥を流している。
- ・ダムが、中止になると民間の開発業者が参入し、さらに、山を荒らしてしまう。
- ・ダムができれば山林を公有化することも計画にあるようなので、山の環境が守られ将来的には、自然公園化し市民の交流の場にしていくことが望まれる。
- ・丹生ダムの計画は、ダム建設予定地の住民は移転も終わり、本体工事を残すのみなので早期着工が必要である。
- ・これまでに地元が、ダム反対から始まり、今日にいたるまでに費やしてきた長い時間や歴史を考えると感情的にもダムが中止は受け入れにくい。
- ・洪水時の怖さは地元住民が一番分かっている。
- ・台風などの際に起こる水圧による堤防の脇から湧き出るといった水は破堤をおこす恐れがあり、危険と背中合わせの環境は、住民生活の毎日を不安にする。
- ・地元住民の財産を守るためにはダムが必要である。
- ・自然のいとなみは複雑であるため、自然をコントロールするのではなく共存していくにはどうするかを考えるべき。
- ・ダムは、現時点での人(治水・利水)の役に立っているが本当に重要なものをなくしていく恐れがある。将来の子供の為に残せる環境をも含め考えていくべきである。
- ・自然調査等にコストをかけないと将来自然をなくしてしまう恐れがある。
- ・淀川下流部では新規のダム事業で水利権を獲得しようとしている。
- ・大阪、阪神は水余り。京都はマクロでは水余り。宇治は暫定水利権である。
- ・利水を求めてのダム建設の必要性はあるのか。
- ・高時川は淀川水系で最も美しい川であり、美しさを保ってほしい。
- ・大阪、阪神は丹生ダムの水利権を必要としない。
- ・山で働いていた人の収入がなくなってきている。
- ・この地域のブナ林が、もし残っていたら世界遺産になっていたと思う。
- ・日本の気候風土を考えると木材が必要だが海外の安いものを使うため需要がなくなってきている。
- ・山は放置すれば、自然に帰るとするのは間違いで、人が入ることで自然との共存が保たれる。
- ・高時川は濁水の時期があり、工業用水に取られ必要な時に水がない。
- ・ダムを起爆剤にして自然と密着型の産業が必要。
- ・大阪・阪神で水が余っているにもかかわらず、立てられている必要水量の予測値が問題である。
- ・実際に今水が余っているか調査中で、丹生ダムが完成してこそ水余りの結論がでるのではないか。
- ・水利権が増えた。現在、水余りだとは言えない。
- ・H6年のような濁水時でも水余りと言えるのか？
- ・濁水時は別に考えるべきであり、濁水時は利権など言われてられない。
- ・H6年の濁水時も、琵琶湖の水位は-123cmで、大阪・阪神で減圧給水はあったが、断水はなかった。
- ・生活用水は最優先考えられている。
- ・H6の濁水(大濁水)は頻繁に起こるものではない。琵琶湖の水位は-150cmまで下げてもしかたがない、-200cmまで下げること考えられている。
- ・琵琶湖の水位を下げれば生態が破壊することもあり、自然環境についての観点が無い。
- ・量の問題で手一杯で水質にまで及ばない。
- ・河川管理者が水環境とはどういうものか見直し、その後投資を行うべきであり、水量の問題よりも水質の問題が重要。
- ・治水・利水が重要だがそれがダムに結びつくのか？他の方法があるのではないか。

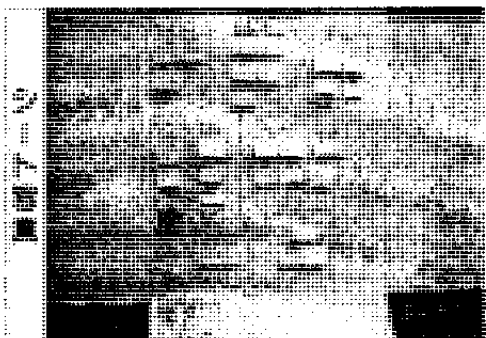
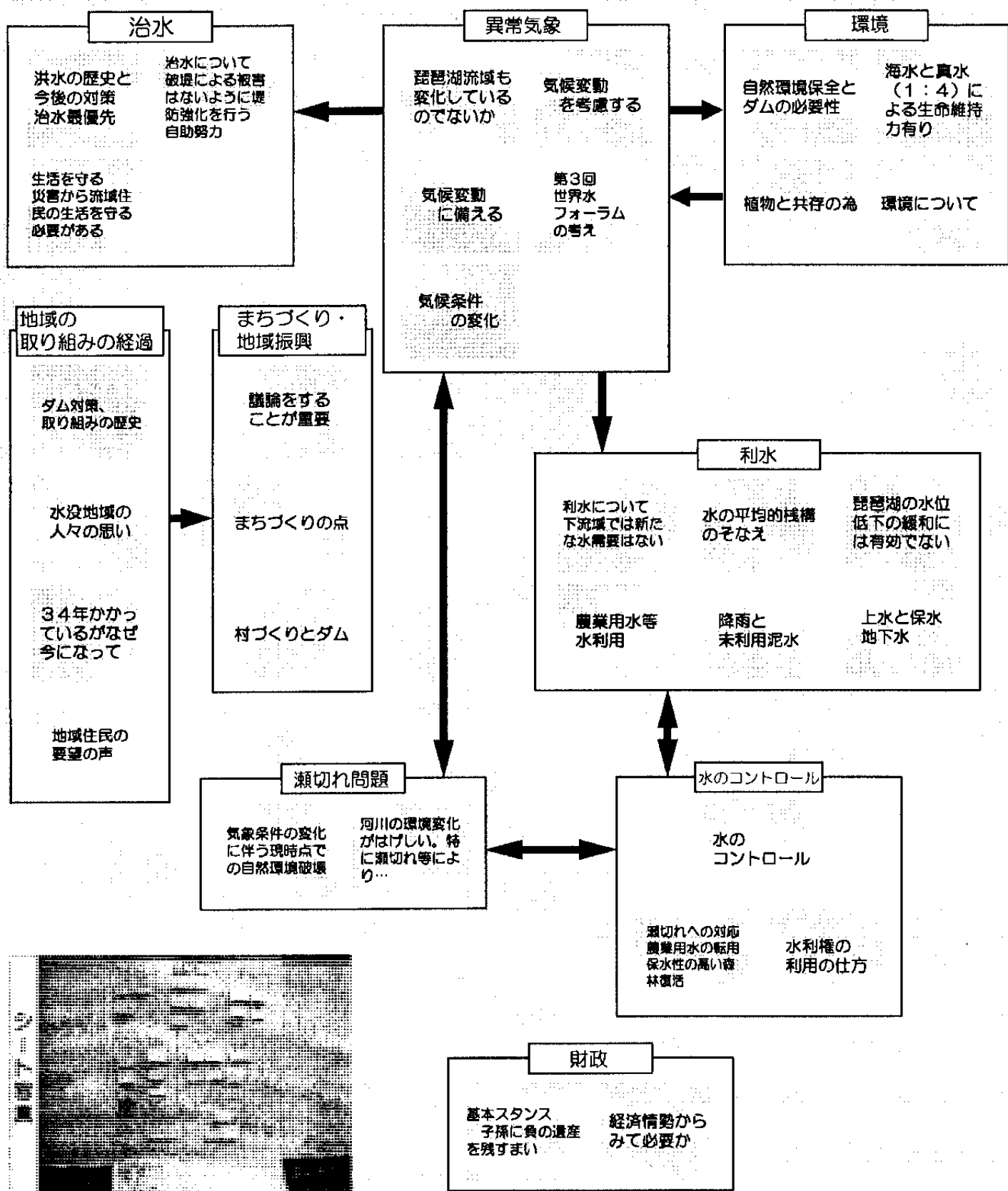
グループファシリテーターの意見

1グループにおける第1回目は、参加者が話したいことをポストイット3枚に短い文章で記入し、自己紹介を行いながら、ひとつの文章を取り上げそれについて説明していくことから始めた。その後、それらの意見について、議論することとした。第2回目は、第1回目から議論になった水余りについて議論を行い、次に、残りのポストイット2枚(話したいこと)を聞きあい、その後、それらについて議論を行い、出された意見を知りたいこと(調査)や、検討してほしいことに置き換える作業を行うとともに、討論参加者共通意識である自然環境等をテーマに話をすすめていく予定である。

第2グループ

【 討論参加者 】
 ・丹生善喜・浅見勝也・寺村京子・コ玉博之・千代延明恵
 ・鈴木秀利・南部厚志・鳩代利博 (敬称略)
 グループファシリテーター： 森川稔(株式会社 アーバンスタディ研究所)

第1回完成 シート



報告者 : 浅見勝也



- ◎ ダムの賛否は問わず、いつも思っていることを話し合った。
- ◎ 治水・異常気象、その関連で環境・利水についての話題が出た。
- ◎ 治水や利水、異常気象などを考慮した水のコントロールが必要。
- ◎ 生物環境としての瀬切れの話題も重要。
- ◎ 地域の取り組み等も重要であることも議論された。
- ◎ ダム完成後の地域復興、まちづくりの必要性も議論された。
- ◎ お金（財政）の話題にも議論は至った。

討論中に出た意見

- ・ 歴史の教訓から高時川の治水が必要である。
- ・ 自然環境破壊がおこっている（環境変化がいちじるしい）。
- ・ 地域住民の要望の声がある。・ 瀬切れへの対応。・ 流域の生活者を守る必要性がある。
- ・ 業者が入ってきたことで引き起こされた水質悪化による自然破壊。
- ・ 過疎化が進んでいるため、若者が住まうまちづくりが必要である。
- ・ 農業用水の利用のためにもダムは必要である。
- ・ 近年、気候変動が著しく、琵琶湖流域も影響を及ぼし、今後、渇水や洪水が増すのではないかと心配している。
- ・ 気候変動のための治水対策が必要である。
- ・ 植物と共存が必要である。・ 未利用のまま流れていく水を利用したい。
- ・ 子孫に負の遺産を残したくない。
- ・ 工業用水の転用で利水増大は必要がない。
- ・ 治水は、破堤をくいとめるための堤防強化面で転用がきくのではないか。
- ・ 森林の保水力を高める事も同時に必要である。
- ・ 農業用水を転用することによって瀬切れは、解消されるのではないか。
- ・ 地域の若者の意見を重視する必要がある。
- ・ ダム建設を行うなら、治水・利水だけでなく、まちづくりの観点も重視して行うべきである。
- ・ ダム完成が終着ではなく、出発点として考えていくべきである。
- ・ 30年も前から計画があるのにできないのは必要性が薄いからということも考えられる。
- ・ ダム建設は、現在の経済状況からやるべきではない。
- ・ 水位が増すのは台風時だけではないか。
- ・ 山の保全にもっと力をいれればよい（保水力を高める）
- ・ 水利権の見直しに組み込めばよい。

グループファシリテーターの意見

それぞれの討論者が他者の考えや思いに耳を傾けること、また、討論者8名からの発表をもとに、丹生ダムについての論点を明確にすること。以上の2点を、第1回のワークショップの目的とした。論点として、以下の点が整理できた。①大雨や渇水などの異常気象を丹生ダムではどうとらえるか、②高時川流域の治水という視点から、丹生ダムをどう考えるか、③下流域での水需要が減少するなかで、丹生ダムの必要性をどう考えるか、④自然環境の悪化や瀬切れが発生するなかで、自然環境の保全、自然環境との共存をどう考えるか、⑤瀬切れや利水などに関連して、水のコントロール（有効利用）の再考が必要ではないか、⑥地域の丹生ダムに対するこれまでの取り組みの経過をふまえることが必要ではないか、⑦まちづくりや地域振興という視点から丹生ダムをどう考えるか、⑧子孫に負の遺産（国家財政の借金）を残さないという視点から、丹生ダムの建設をどう考えるか。第2回のワークショップでは、こうした論点の一つひとつについて、議論を深めたいと考えている。

第3グループ

【 討論参加者 】

- ・ 澤村宗一郎・近藤齊伸・西尾新治・立見安弘・泉良之
- ・ 澤村繁 ・川地勲 ・井口賢一・小堀猛 (敬称略)

グループファシリテーター： 中村伸之 (ランド・デザイン)

第1回完成 シート

<p>コスト・税金</p> <p>生命力の大切さ、移転費、新しい家・新しい街→高齢者の環境対応が心配</p> <p>琵琶湖環境保全 原流から淀川水系マクロ視点整合性、治水、利水(伏流水・農業水)</p> <p>住民負担はどんなのか？</p> <p>医療・年金・介護など福祉の向上にこそ税金は使われるべきムダな環境破壊のダムに国民の税金を浪費するのは問題。</p> <p>行政財政面から利害対立は問題</p>	<p>代替案</p> <p>ダムに代る対策は何か</p> <p>ダムに頼らない治水対策をこれ逆どのように開じてきたか？</p> <p>なぜ全国でダム等の大型公共事業の見直しが叫ばれるのか？を考えた</p> <p>ダムの代替案、どのような方法があるのか、検討が必要</p> <p>地震対策？ 断層</p> <p>工事に着手しているのに何故見直しか</p> <p>ダムに代わる水資源調節として遊水池や治水池が昔は沢山あったが、近年になって開発によって取りこわされてしまった</p>	<p>水害の恐ろしさ</p> <p>伊勢湾台風の状況災害の体験、立地条件、治水の立場</p> <p>水害や土砂流の恐ろしさは</p> <p>水に対する不安解消(差別との戦い・治水の必要性)</p> <p>洪水時の河川の水位の上昇は数分の内に1mくらいは増水する。上流では何トンもの岩が流れる。その恐ろしさは忘れられない</p>
--	---	--

環境・濁水・河川維持・生態系

<p>森林の大きな保水力</p> <p>なぜ今？なら環境？</p> <p>琵琶湖(下流)をみるより山(上流)をみる生命の大切さ</p> <p>昔の内湖のよさをもたせる</p> <p>山をみる どんな水が流れてくるか</p>	<p>本当にダムは環境破壊なのか</p> <p>遺跡の保護</p>	<p>伏流水利用(地下水) 上水道</p> <p>湧切れ(濁水) 7~8月高時川砂害(洪水) 生態系→子供の遊び場</p> <p>農業用水とのバランスに不都合はないのか</p>
---	-----------------------------------	--

河川改修・浚渫について

<p>治水代替案としての河川改修は高価なものと、又時間を要する</p> <p>集落移転は下流にもあった</p> <p>ダム安全井のため放水路を作って下さい 琵琶湖の環境</p>	<p>放水路と余興川→丁野木川→早崎干拓(もとにもどす)→田川→跡川放水路 びわこをぐるっとつないで</p> <p>浚渫がS40年頃より実施されない</p> <p>かずみ堤 二重堤 遊水池の設定 堤防強化 防床磨削を優先すべき</p>
--	---

シート写真



第1回 討論風景



第1回 全体報告

報告者：西尾新治

サブ報告者：小堀猛

5つのテーマで議論。

- ◎河川改修の困難性→ダムの必要性(高時川は天井川で流域も開発されていて、災害が起こりやすい)→水利権など。流下能力を考えて、ショートカットやかずみ堤の指摘も。
- ◎水害の恐ろしさ →ダムによって不安解消 ◎ダムにかわるものはないかそれが行われていないとの批判。
- ◎濁水対策(生態系への影響) ◎コスト面での提案(住民負担)、税の考慮→他事業との関連。

討論中に出た意見

異常気象と治水・防災対策に関して
治水対策に関して

治水ダムとの必要性、水に対する生活不安

河川改修
水利権が
じゃまする

- ・丹生川と鷲見川の近く、水利、高時川の支川としての水の重要さと高時川の水を半分とって水のあらいが起った所からの水の大切さを考えるべきである。
- ・姉川、高時川の下流1kmの所に位置する場所では、S50年の災害に遭遇した際には、200mの川幅に膨れ上がり、堤外民地であるため(1/3が川の中にある)危険を感じた。
- ・治水、地域を守る中でダムに頼らない方法をどのように取りくんできたのかまた、今まで責任をもって行ってきたのか疑問である。
- ・世界的な異常気象が大雨を発生させている。100mm/時の豪雨が発生したこともある。
- ・一方、渇水もある。高時川の現状は沿川の高度利用。
- ・流下能力が低い所の河川改修は、面・点・線での取り組みが必要である。
- ・ダムの安全弁のために放水路を作ってほしい。
- ・水のにこりが早い。
- ・高時川の下、大津放水路のような感じにしてほしい。
- ・森林の保水力自然林の保水力のすごさをわかってほしい。
- ・治水・利水のコンセンサスはもうついているのでは？
- ・環境との中で調整をするのが大事であると考えている
- ・堤防の決壊も何度かあり、自分の集落に水がたまる状態になっている。
- ・堤防そのものが軟弱で何度も決壊している。
- ・下にある山田川は堤防左右で10cm違う。
- ・水に対する差別をずっとうけている。
- ・利害関係の調整が一番の問題。
- ・治水・天井川・治水・渇水の状態が増えてきている感がある。
- ・農業用水は、水が必要な時にうまく必要な量の水が流れる性能になっていない。
- ・川にはいつも水が流れているという状態をつくらなければいけない。
- ・この地域のブナ林が、もし残っていたら世界遺産になっていただろう。
- ・またアメニティ環境も必要である。
- ・用地買収も進んだのに中止の話しができるのはおかしい。(見直しの話)
- ・高時川の沿川の方は雨が降るといつも大変である。
- ・流域の方はダムが出来ること安心感があると思う。
- ・大雨の際には、地下水の伏流もあり大変である。
- ・ダムに頼らない治水対策が必要である。
- ・過去の歴史を知っているのかと言われたこともあるが丹生にブナ林を植える会もある。
- ・ダムを作らなくても河川改修でなんとかできるという事例もある。
- ・流量の制定が大きく見積りされている可能性もある
- ・魚の生態系への影響などの調査をしないとわからない
- ・ダムができる所には遺跡がある。調査する必要があるのではないかと。
- ・原生林の保護の話は今までとりあげてくれなかった。
- ・命と財産を守るという話はあるが、全く別の環境になってしまっている可能性がある。
- ・水利権の問題が残っている。
- ・川幅が3m→60cmになっている所がある。
- ・水があればあるほどいいと思う。
- ・利水も治水も河川もダムも一緒に考えなければいけない。
- ・40戸あまりが移転して、堤防の内側にひっこした。集落が2つに分かれた所もある。
- ・人間の文化は流域と共に発展してきた。下流の洪水に対してみんな考えてほしい。
- ・水の逃げ道をつくらねばいけない

グループファシリテーターの意見

かわら版と言う性格上、まず参加者に自他を含めて論点を思い出してもらい、自分の発言を確認する、言い足りなかった、理解されにくかったという自己評価をしてもらい、ことが重要とします。

このまとめは、その役割を果たすのではないのでしょうか。わかりにくい意見(ポストイットのコメント)はそのままにして、次回への教訓にしたい。テーマ分類のまずいところはそれを考えることで、論点の整理がより深まるのでは・・・また、事情に詳しい人は、これらの断片的なコメントを見るだけでどのような話し合いが行われたかを、容易に理解するでしょう。いずれにせよ、与えられた枚数と時間ではワークショップの完全な復元は不可能です。

1つ1つが不完全でも、語られたほぼすべてを網羅することが、次回につなげる上で重要と考えます。

それらを深化させるために、次回のワークショップをするのですから。

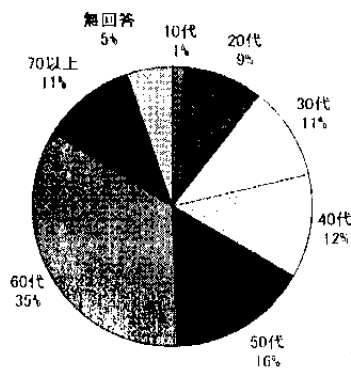
傍聴者からの意見（第1回討論会アンケートより）

- ・人間が使う水の必要量は、自然のままでは不安定であり、貯水して安定化できる地球温暖化に伴う異常気象を考える時、治水利水にダムが必要。
- ・ダムは環境への影響があるし又、ダムサイトも有限でありダムは大きなダムとして数を少なくすることが全体環境として良い方向である。
- ・丹生ダムはダム最大の問題であるダム地点の住民の同意を得ており、早く完成させるべきである。
- ・丹生ダムは琵琶湖の一部であり琵琶湖の関西圏における恩恵が大きい琵琶湖への影響もでており、この影響を少しでもなくすよう早急に丹生ダムをつくるべきである。
- ・高時川の瀬切れは大きな環境問題でありダムがぜひ必要である。
- ・丹生ダムは、即刻、着工してほしいと思う。気象条件は、いつ変わるかわからない。いつ災害が起こるかわからない。あなたたちは(整備局)そんなのんびりしていいのよ。様々な、リスク(河川による)を保障してくれるのか。
- ・一日も早く着工してほしい。
- ・私たちは山、木によって、生きられていると言って良いと考える。私たち人間が、ダムをつくるためにその環境を壊してはいけない。
- ・今や、田舎でも、きれいな水がながれているところは、数えられるほどしかない。人と森(山、木)が共存していける世界を作る必要がある。
- ・ダムをつくり山を壊すことで山の水が汚れ、災害が防げなくなり、きれいな水の流れている川、水が飲めなくなる環境は、いやである。
- ・これからまだまだ生きていく私や、これから生きていく子供達にとって昔のきれいな姿を少しでもありのままに残して伝えていかなければならない。
- ・環境を壊すことによって、人だけでなく、一緒に共存していく動物や植物たちにも悪い影響を与える。車の排気ガスによる大気汚染やオゾン層の破壊。すべては私たち人間によるものである。人間の都合のよい事だけを考えず、全ての環境にかかわるものは本当は人間だけで決めるのは問題である。人、動物、植物が納得できる方法をもっと考え、本当にダムを作るべきか、もっと考える必要がある。
- ・大人だけでなく、子供達も参加して、自分の思いや、大人の思い、他の人の思いや意見を聞く必要がある。次の世代をになうのは私たち子供達である。
- ・非常に山林関係の管理をする人が減少している。山は、人道がなくなってきている。炭焼き時には個人で作った道だ。自動車で行けるような道の管理は管理といえないだろう。山へ杉を植えた状態を広葉樹に替えないと今の自然は変わらない。花粉症もなおらないだろう。

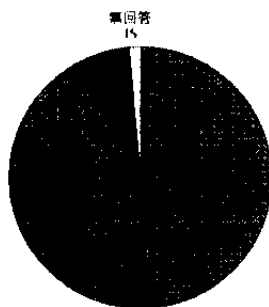
第1回討論会アンケート集計

* アンケートについては、皆様方から頂いたご意見を紙面の関係上、簡略化させて頂いており、また、似ているご意見については、まとめさせて頂いております。

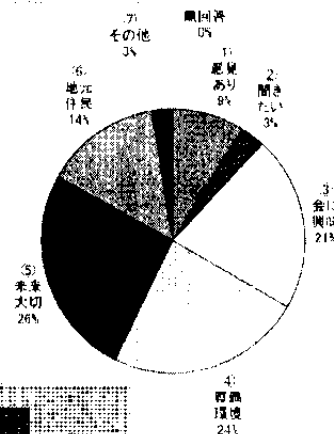
傍聴者・参加者 年齢別



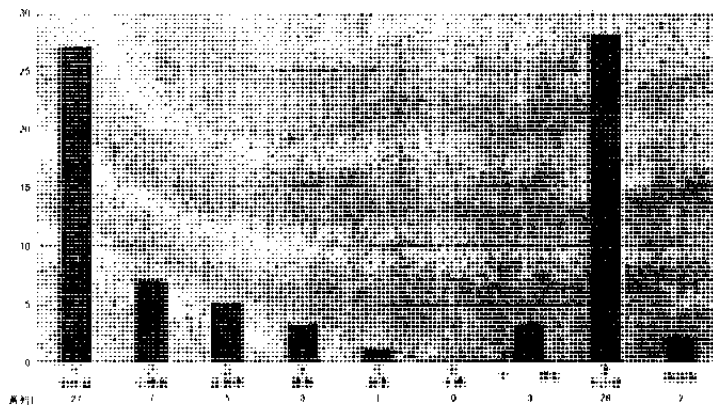
傍聴者・参加者 男女別



傍聴者・参加者 参加動機別



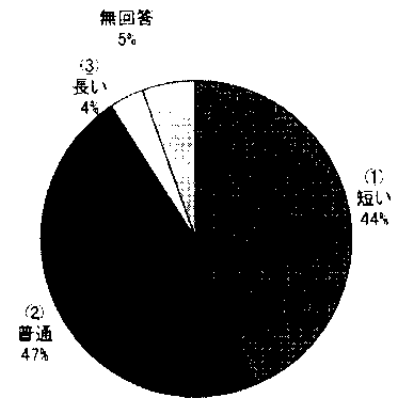
傍聴者・参加者 職業別



今回のグループ討論の運営への感想

- ・実際のデータを公開して意見を述べるとわかりやすい。
- ・過去の歴史や事実は非常に重要で絶対に知る必要がある。その失敗等をどのように改善していくかの話し合いが重要だと思う。特に転換のためには現時点でのデータは必須である。
- ・ファシリテーターはうまく議論を進めていたが、この問題について、討論者がさめており、結論を出すのでなく、話を追求すると困るような感じがする。
- ・3つのテーブルが近すぎてききとりにくい点があった。
- ・討論がほとんどないグループがあり、各自の意見をのべたのみ。もっと議論をしなくては、ものを考えなくてはまともでない。
- ・いろいろな人たちのいろいろなダムに対する意見が聞けてよかった。
- ・みえてこない部分が違う人の意見を聞けてくるのではないかなと思った。
- ・消費側の意見が少なく、片方によっているが、良く討論内容確定化が良かった。
- ・自らの意見発表だけで、討論になっていなかった。実質討論は次回以降になろう。
- ・比較的スムーズに運営されたと思う。レベルは高い。・流域、各地域の諸問題がよくわかり理解できた。
- ・自分の意見が時間がなくて充分話せない。・一部の人の意見としては概略、よくわかった。
- ・地域全体としては、どうなのか、疑問である。・討論者として参加したが、意見を述べる時間が少なかった。
- ・1グループ人数8名は多く、6名程が望ましい。
- ・次回の話の進め方について、あらかじめ、各人が意見をまとめてくる必要があるのではないかな。
- ・特に利水面の資料がないので概念的になった。
- ・最初と最後の司会者のしゃべる時間が多すぎ、その分を、参加者への発言時間に当ててもらいたかった。
- ・自分の意見が話せたので、方法としてはこれでよいと思う。

討論会時間について



この対話討論会を通して気づいたこと

- ・丹生ダムは是か非か、代替案の具体性がない。・治水、利水の中心基盤をはずさない論議から決めるべき。
- ・下流域に生活しているものと、そうでない人との考え方に差異がある。
- ・不安をかゝえて生活している(水害)ものの気持ちを理解してほしい。
- ・討論終了後の河川整備計画に反映させる事項をどうするのか、先のことが気になる。
- ・多様な意見の方々と接することができ、対話することの意義を感じた。
- ・ダム予定地周辺の住民や流域住民の安全を、どのように守るのか。視点の優先がむづかしい！！
- ・生活者、理想主義の、まとめが出来るのか不安。
- ・若い人が少ない。
- ・問題が多岐にわたるので、ある程度、テーマをしぼって進めてはと思う。
- ・一つ一つの、問題提起について、つっこんだ議論になっていく工夫が必要。

この対話討論会を通して驚いたこと

- ・経理の論議基礎が無いー利水面のみ ①構築費と経費 ②他に水を利用するのに要している分の計算
- ・異常気象、地球温暖化に起因する問題まで、ダム建設で対応しようと考えている人がいること。
- ・財政問題、費用対効果が、二の次、三の次、あるいは全く考えない人が多かったこと。
- ・みなさんがシンケンに討論していた。
- ・女性の参加、若い人の参加が少なすぎる。
- ・意見発表の持ち方 時間が少ないです
- ・通常では見えない様々な問題が、河川には存在するという事。
- ・丹生ダムの必要性を考えている人が少ない・災害(水害、土砂流)のこわさを知らない人が多い。
- ・意見を述べ合っただけなのか。白黒の対立もなく、なごやかに進行した。
- ・たくさんの方が関心を持っている・オブザーバーが多い(関係者?)
- ・第1グループは、ダム建設推進派が多いので、水余り議論が、進展しなかった。

この対話討論会の問題点は何が

- ・どれだけ参考になるか問題である。
- ・「対話討論」なのか? もっと意見を聴きたい。
- ・何故ダム(丹生)を今更、見なおしをするのか。
- ・委員会提言(ダムの扱い)と、討論会でも集約、総括へと進むと思いますが十分反映されたい。
- ・問題点を取り上げて、各人がいろいろな角度から話をしたらと思う。
- ・相互に理解するまでに至らなかった。

意見交換は十分にできたか

- ・しゃべれた。
- ・各人の意見をより正確に聞きたかったし、言いたかった。
- ・時間が短すぎて、十分な意見がのべられなかった。
- ・あまり出来なかった。 ・一人当り、2回しか、しゃべれなかったこと。

意見と感想

- ・様々な意見が出され、グループ内でのネタ出しとして(第1回)は良かったと思うが、討論者間での内容把握度の違いがあったように思う。何が良いか悪いかということではなく、いろいろな面から討論するうえで、事業主体の考えも(方向性)も聞いてみたい。しかしながら、大変参考になる貴重な試みと思いました。今後の進展に興味がある。
- ・滋賀県に住んでいて、ピワコの問題などについて考えるキッカケになると思って参加した。いろんな方の意見が聞けて非常に参考になると思う。こういう会を開いてもらうことはうれしい。
- ・組別に空が分かれて居ると良いと思う。 ・断片的すぎた ・内容がよく判らなかつた。
- ・河川事業はあくまで自然現象との関係であり、治水容量・利水容量ともに余裕をもった計画としておくべきだ。
- ・1つのグループで傍聴していたが、各人が意見を述べるだけで時間が経過してしまったため、議論は無かつた。
- ・考え方のキーワードで分類できた事で、それぞれ次回から討論できるのではないかと思った。
- ・討議の内容が聞こえないので傍聴しても意味がない。 ・他グループの声が聞こえて集中できない。
- ・座席表と意見書をはっきりさせれば、意見交換の時間短縮、効率的な運営がはかれる。
- ・テーマを決めてそのテーマに基づいて意見を聞いたらいい。 ・カワラ版 期待しています。
- ・個々の意見をのべているのでまとまりがない。 ・一人一人の意見がダムに対してどう判定されるかわからない。
- ・前後のファシリテーターの話、説明、とても良く理解できた。
- ・詳細な記録を公開してほしい。(対話集会の有効性を検討するため)
- ・事務局員が、うろうろし過ぎ。所定の場所に最後まで居て職責を果たす事を守って下さい。
- ・最後(第3回)の意見のまとめが、楽しみです。 ・会場は駅に近い方がいい。
- ・対話・討論をするにあたって、お互いの考え方を尊重するべきだと思った。(ファシリテーターも)
- ・発表者について『賛成』『反対』『中立』の区分をはっきりわかるように、リボンをつけるなど、一般聴衆者にわかるようにしてほしい。また『中立』についても、理由、意見など、はっきりすべきである。
- ・対する意見交換の時間が取れば良い。 ・意見の整理に一工夫を(時間短縮)
- ・コンピューターの利用(水フォーラムの事後の意見取りまとめ方式を、採用されれば、もっと議論が進むと思う。)
- ・この様な意見交換は30年前から(旧)建設省と行って来た。過去のコストと時間を掛けたことは全く無になった様に思われてむなし。 ・傍聴者にも 後で質問・意見の場を設けてほしい ・駐車場になかなか入れなかつた。
- ・この討論会について主催(国：整備局)者の目的が不明。
- ・今後、討論会の内容をどうダム建設等について反映していくのか? ・単に意見を聞くための場に思える。
- ・あつという間の2時間半でした。ひとりひとりの意見に引き込まれる感じがしました。 ・次回が楽しみです。
- ・全体的にダム推進派の方がグループ内には多かつたのですが、チラシやポスターの配付方法や、提出されたレポートでの立場の分類など、偏りがなかつたのか、気になつた。 ・色々な話がきけてよかつた。
- ・別法、丹生ダムの対話討論会 意見書について ①ダム反対の内容は大体理解できる。 ②賛成の方の内容が、大変にお粗末で、何故、中止になつた、状況把握が十分でない。 ・参加者リスト欲しい。
- ・全国数十ヶ所のダムがありこの中で ①良くなつた所 ②悪くなつた所 を資料として配布してほしい。
- ・いい悪い論議から、意見を認める出発点をkeepする。 ・意見のちがう人と理解し合えると良いな。
- ・「治水、利水」「ダムの促進」「河川改修」「自然保護」等にグループ分けして討論してみてもどうか。
- ・事前に今日のテーマを基に、問題をしばって、対話をしてはと思います。 ・資料は事前に配付して欲しい。

今後の予定(対話討論会開催日)

第2回 2003年12月20日(土) 13:00~15:30

ひこね燦ばれす 彦根市小泉町648-3 TEL 0749-26-7272

第3回 2004年 1月17日(土) 13:00~15:30

長浜ロイヤルホテル 長浜市大島町38 TEL 0749-64-2000

※グループ内討論参加者名は、申し込み順で記載されています。御了承のほどよろしくお願い致します。

お問い合わせ先 〒520-2279 滋賀県大津市黒津4-5-1
琵琶湖河川事務所 調査課内「丹生ダム対話討論会」係

TEL.077-546-0844(代表)